

目 次

巻頭言

本校の概要 1

創立の趣旨

沿革

使命・育成する人財像 3

香川高等専門学校の使命

育成する人財像

3つのポリシー 4

本科

専攻科

組織 6

組織図

役付職員

現員

本科 8

一般教育科

[創造基礎工学系]

機械工学科 12

電気情報工学科 14

機械電子工学科 16

建設環境工学科 18

[電子情報通信工学系]

通信ネットワーク工学科 20

電子システム工学科 22

情報工学科 24

専攻科 26

創造工学専攻

機械工学コース

電気情報工学コース

機械電子工学コース

建設環境工学コース

電子情報通信工学専攻

国際交流活動 30

国際学術交流

学生の国際交流活動

香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した

学生の国際交流活動

香川高専グローバルエンジニア研修プログラム

国際シンポジウム等の開催

外国人留学生

地域人材開発本部 32

地域人材開発本部組織図

スタッフ

みらい技術共同教育センター

地域イノベーションセンター

香川高専教員の研究分野、キーワード

産学官連携活動

地域社会連携活動

AI社会実装教育研究本部 36

社会基盤メンテナンス教育センター 37

研究活動等 38

科学研究費助成事業

受託研究

共同研究

その他競争的資金・助成金

情報処理施設 40

情報インフラストラクチャ

情報基盤センター

技術教育支援センター 41

学生相談等施設 42

学生相談室

キャリアサポートセンター

図書館 43

学生寮 44

清雲寮

七宝寮及び国際紫雲寮

福利厚生施設 45

自彊会館

福利センター

職員集会所

和敬館

合宿研修所

学生数と志願者状況 46

学生数

入学志願者数と入学者数

学生組織 47

学生会組織図

部活動及び同好会

進路状況 48

本科生

専攻科生

大学編入先一覧 本科生

大学院入学先一覧 専攻科生

就職先一覧

施設配置図 50

財政 50

収入・支出

寄附金受入状況

アクセスマップ 52

校歌 53

本校の概要

◇創立の趣旨

近年、社会の変化に伴って国立高専を取り巻く環境は大きく変化し、それに対応して高専には自ら変革することが強く求められてきています。即ち、あらゆる分野のグローバル化が進展し、科学技術の進歩と社会の高度化・複雑化が急速に進み、高専教育においても時代に対応した準学士課程の充実と専攻科の高度化が必要になっています。一方、少子・高齢化による社会の年代構成の変化とともに、子供達の理科離れ現象により高専の志願者数は減少傾向にありますが、社会の発展の基盤部分を支えていくという社会的責任の下に、高専としては、従来以上の高度な実践的・創造的技術者の育成を目指さなければなりません。

中央教育審議会大学分科会においては、高等専門学校特別委員会が設けられ、「高等専門学校教育の充実について」検討され、平成20年12月24日に16年ぶりで答申がなされています。そこには、開校以来高専が高い評価を得ていること、知識基盤社会の到来に対する技術の高度化に向けて、科学技術創造立国を実現するという観点からも一層の教育の充実・強化が必要であることなどが述べられています。また、学習意欲の高揚を図り、国際的な活躍が期待できる学生を育てるために、他の教育機関や産業界、地域社会との連携を進めることの必要性が提言されています。

これらの状況を踏まえて、香川地区では二つの高専の特色を活かしつつ、高度化再編を図り、本科を創造基礎工学系（高松キャンパス）と電子情報通信工学系（詫間キャンパス）の2工学系に大括りして、専攻科は本科の各工学系に対応した2専攻として、新しく「香川高等専門学校」を創立しました。この新高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」としています。そして、教育研究基盤並びに管理運営基盤の強化を基に、広い視野と創造性・問題解決能力に富む実践的な技術者を育成するとともに香川県の産業界や行政と連携を深めて地域の活性化に貢献します。さらに、四国地区高専の拠点校として、高専間の連携を図り、産業界や大学との広域連携体制を構築していきます。



◇沿革

高松工業高等専門学校（高松キャンパス）

昭和 37（1962）年 4 月

機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級からなる国立高松工業高等専門学校を創設

初代校長に増山義雄（大阪府立大学教授）就任

昭和 41（1966）年 4 月

土木工学科 1 学級を増設

昭和 49（1974）年 4 月

第二代校長に立松秋雄（文部省大学学術局科学官）就任

昭和 57（1982）年 4 月

第三代校長に國松治男（文部省初等中等教育局審議官）就任

昭和 61（1986）年 6 月

第四代校長に河西三省（京都大学名誉教授）就任

平成 2（1990）年 4 月

機械工学科 1 学級を改組し、制御情報工学科を設置

平成 3（1991）年 4 月

第五代校長に山本清（日本国際教育協会専務理事）就任

平成 6（1994）年 4 月

土木工学科を建設環境工学科に改組

平成 8（1996）年 7 月

第六代校長に平川忠男（大学入試センター副所長）就任

平成 11（1999）年 4 月

専攻科（機械電気システム工学専攻、建設工学専攻）を設置

平成 13（2001）年 4 月

電気工学科を電気情報工学科に名称変更

第七代校長に早野浩（文部科学省大臣官房文教施設部長）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校に移行

平成 17（2005）年 4 月

第八代校長に塩谷幾雄（広島大学理事・副学長）就任

平成 20（2008）年 10 月

第九代校長に嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂長、地球環境学舎長）就任

香川高等専門学校

平成 21（2009）年 10 月

高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校を高度化・再編し、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校を設置
創造基礎工学系（機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科）、電子情報通信工学系（通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科）を設置

専攻科（創造工学専攻、電子情報通信工学専攻）を設置

初代校長に嘉門雅史（高松工業高等専門学校長）就任

平成 25（2013）年 1 月

香川高等専門学校創基 70 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行

平成 26（2014）年 4 月

第二代校長に八尾健（京都大学大学院エネルギー科学研究科教授・工学部教授、前エネルギー科学研究科長）就任

平成 30（2018）年 4 月

第三代校長に安藤芳雄（大阪大学教授、産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター長）就任

令和 3（2021）年 4 月

第四代校長に田中正夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）就任

令和 6（2024）年 4 月

第五代校長に荒木信夫（一関工業高等専門学校長）就任

詫間電波工業高等専門学校（詫間キャンパス）

昭和 18（1943）年 10 月

官立無線電信講習所大阪支所を大阪府中河内郡矢田村に設立

昭和 20（1945）年 4 月

官立大阪無線電信講習所と改称

昭和 24（1949）年 4 月

香川県三豊郡詫間町に移転、国立学校設置法の施行により詫間電波高等学校と改称

昭和 46（1971）年 4 月

国立詫間電波工業高等専門学校を設置

初代校長に石黒美穂（徳島大学工学部教授工学博士）就任

昭和 51（1976）年 4 月

電波通信学科 2 学級、電子工学科 1 学級に改組

昭和 54（1979）年 4 月

第二代校長に田中哲郎（京都大学工学部教授工学博士）就任

昭和 55（1980）年 4 月

電波通信学科 2 学級を電波通信学科 1 学級、情報工学科 1 学級に改組

昭和 60（1985）年 4 月

電子制御工学科 1 学級を増設

昭和 62（1987）年 4 月

第三代校長に浅井健次郎（京都大学理学部教授理学博士）就任

平成元（1989）年 4 月

電波通信学科を情報通信工学科に名称変更

平成 3（1991）年 4 月

第四代校長に片山健一（京都大学化学研究所教授理学博士）就任

平成 8（1996）年 4 月

第五代校長に布川昊（京都大学工学部教授工学博士）就任

平成 13（2001）年 4 月

第六代校長に竹内賢一（京都大学大学院工学研究科教授 Ph.D）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校に移行
専攻科（電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻）を設置

平成 18（2006）年 4 月

第七代校長に高畑秀行（高松工業高等専門学校 機械工学科教授）就任

使命・育成する人財像

◇香川高等専門学校の使命

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献

◇育成する人財像

◇広い視野を持ち、自然との調和を図り、人類の幸福に寄与できる技術者。

(倫理)

◇科学技術の基礎知識と応用力を身につけ、時代の変遷に対応できる技術者。

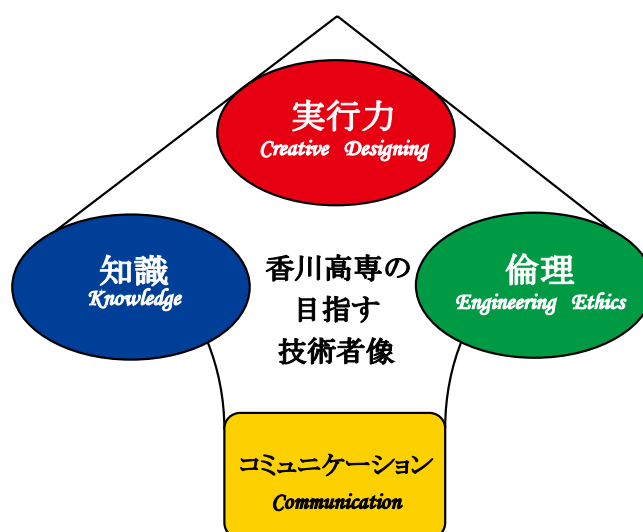
(知識)

◇課題解決の実行力と創造力を身につけ、社会に有益なシステムを構築できる技術者。

(実行力)

◇物事を論理的に考え表現する能力を身につけ、国際的に活躍できる技術者。

(コミュニケーション能力)



この図案は、**知識・倫理・実行力**を三位一体として、技術を磨きつつ人格の形成を目指し、これを基本として論理的な思考力・表現力でグローバルな**コミュニケーション**を通して社会に貢献すると共に、その影響・効果に責任を持ち、常に技術の修得に上昇志向で取り組むことを旨としています。

赤は情熱的な果敢な精神を、緑は穏やかな癒しの精神を、青は知識の泉を表しています。同時に RGB は光の三原色であり、上記の三位一体の概念を含ませています。これに加えて、橙色は自由な精神とグローバル性を表しています。

3つのポリシー（本科）

◇ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

1. 技術者に必要とされる教養を身につけ、技術の発展が人類の幸せや豊かな社会へ及ぼす影響を考えることができる。
2. 自ら学ぶ力を身につけ、工学的専門知識とスキルを修得することができる。
3. 目標の実現に向けて、自ら考え、判断し、見通しをもって創造的かつ計画的に実行することができる。
4. 多様性を理解して、他者を尊重し、対話・協働することができる。

◇カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げた4つの能力を身につけるため、低学年では一般科目を多く配置し、徐々に専門科目へ移行していく楔形の教育課程を編成します。

技術者として身につけるべき一般教養や、専門教育を受ける上で必要となる自然科学に関する一般科目の必修科目については全学科共通の配置とします。

また、高専機構の設定するモデルコアカリキュラムに準拠するよう各学科ごとに科目配置を定めます。

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 教養科目と技術者倫理に関する科目
2. 理数系基礎科目と工学的専門科目
3. 実験・実習に関する科目
4. コミュニケーションに関する科目

学習成果の評価については、Webシラバスに、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標、評価方法・評価割合等を公開し、公開した評価方法・評価割合に基づいて行います。

◇アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように、中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し、技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

- ・技術や科学に関心のある人
- ・数学や理科への興味、勉学意欲のある人
- ・自主性と協調性、積極性のある人
- ・人と自然を大切にする人

求める学生像に基づき、その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし、推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため、推薦書、調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため、学力検査と調査書を総合評価します。

3つのポリシー（専攻科）

◇ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）（学習・教育到達目標）

1. 幅広い知識と教養を身につけ、技術の発展が人類の幸せや豊かな社会へ及ぼす影響を考えることができる。
2. 工学的専門知識とスキルを主体的に修得し、社会的課題の解決に取り組むことができる。
3. 目標の実現に向けて、創造力を発揮して自ら考え、判断し、計画的に実行することができる。
4. 国際的な視野をもって多様性を理解して他者を尊重し、共通の目的実現のために他者対話・協働することができる。

◇カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、各専攻・コースでは以下の科目群を用意しています。

◆創造工学専攻 機械工学コース

1. 国語に関する教養科目および社会に関する工学基礎科目
2. 自然科学に関する工学基礎科目および力学、熱流体、材料、情報処理、などの機械工学に関する科目
3. 特別研究、実験・実習の実技系科目およびインターンシップ
4. 特別研究、実験・実習の実技系科目および英語に関する教養科目

これら科目群に関わる単位修得は、定期試験とレポート等の評価結果により認定します。実験・実習の実技系科目は、レポート等の評価結果に基づき認定します。特別研究は、日常の取組み、発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

◆創造工学専攻 電気情報工学コース

1. 教養科目および特別研究、輪講
2. 自然科学系の科目、専門科目（電気電子工学・情報工学）、工学実験・実習
3. 特別研究、輪講、工学実験・実習およびインターンシップ
4. 英語科目、特別研究、輪講、工学実験・実習およびインターンシップ

これら科目群に関わる単位修得は、定期試験とレポート等の評価結果により認定します。実験・実習の実技系科目は、レポート等の評価結果に基づき認定します。特別研究は、日常の取組み、発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

◆電子情報通信工学専攻

1. 教養科目および技術者倫理に関する科目
2. 自然科学系の科目、電気電子、通信、情報分野の基礎・応用に関する科目
3. 特別研究、特別実験・演習Ⅱにおけるエンジニアリング・デザイン教育など電気電子、通信、情報に関する演習・実験・実習科目、および周辺技術等に関する科目
4. コミュニケーション英語、工業英語などの語学やインターンシップ、特別研究などの電気電子、通信、情報に関する演習・実験・実習科目

これら科目群に係る単位修得の認定は主に、定期試験とレポートによるものとします。ただし、実験・実習の実技系科目は、レポート等の評価結果に基づき認定します。特別研究は、日常の取組み、発表審査会及び特別研究論文の審査結果に基づいて認定します。

◇アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校専攻科では、次のような人を求めています。

〈本校の求める学生像〉

◆創造工学専攻

1. 倫理観と責任感を備え論理的思考力を身につけた人
2. 高度な技術と工学を学ぶために必要な基礎を修得した人
3. 勉学・研究意欲が高く、自ら創意工夫して行動する人
4. 英語を含めたコミュニケーション能力の基礎を身につけた人
5. さらに各コースでは、次のような人を求めています。
 - ・機械工学コース：得意分野を有する機械技術者になる意欲があり、機械工学の基礎知識を持った人

- ・電気情報工学コース：電気電子情報分野の幅広い専門知識とともに課題発見・解決能力を修得する意欲を持った人
- ・機械電子工学コース：「モノづくり」を担う実践的技術者になる意欲があり、機械・電子工学の基礎知識を持った人
- ・建設環境工学コース：土木技術者になる意欲があり、土木工学の基礎知識を持った人

◆電子情報通信工学専攻

1. 技術者を目指す者としての倫理観と責任感がある人
2. 電子情報通信分野の基礎を修得した人
3. 研究や開発に主体的に取り組む意欲がある人
4. 国際コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけた人

求める学生像に基づき、その能力・適性において本校専攻科の教育を受けるにふさわしい資質を有する者を選抜することを目的とし、推薦による選抜、学力検査による選抜及び社会人特別選抜を行います。

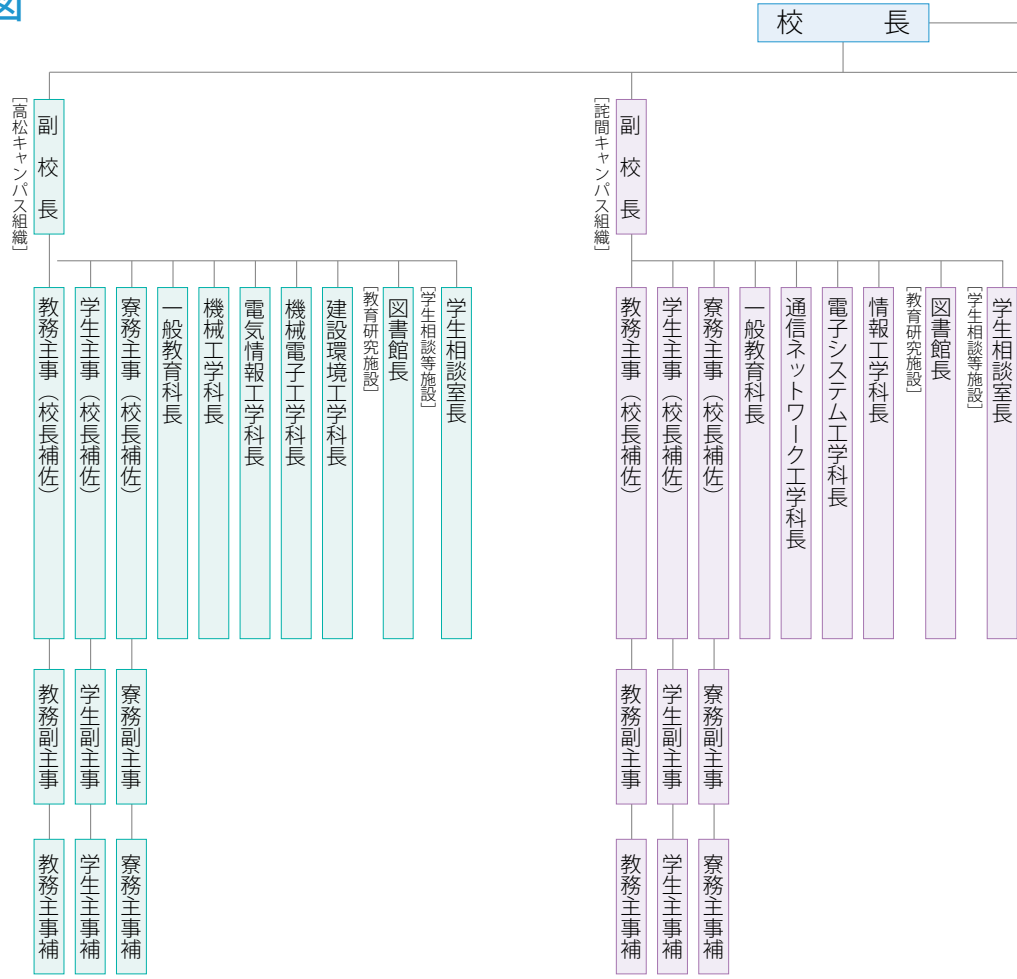
推薦による選抜では、本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため、推薦書、調査書、志望理由書により総合的に評価します。ただし、提出された出願書類の内容を確認する目的で面接を実施する場合があります。

学力検査による選抜では、本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため、学力検査と調査書、志望理由書及び面接により総合的に評価します。

社会人特別選抜では、本校専攻科の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する者を選抜するため、推薦書、調査書、志望理由書、小論文及び専門科目に関する口頭試問を含む面接により総合的に評価します。

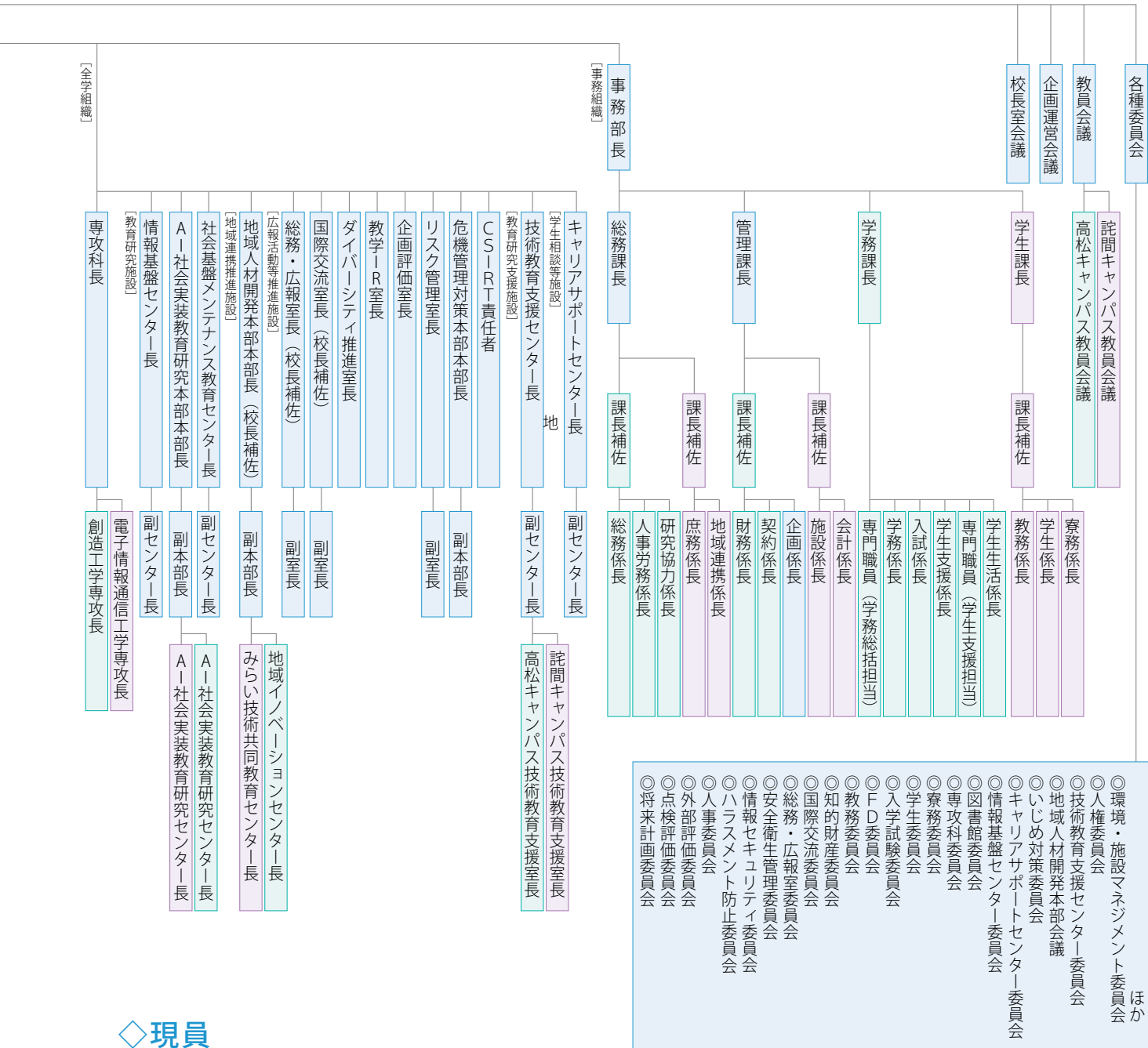
組織

◇組織図



◇役付職員

	役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名
	校長	荒木 信夫		副校長	矢木 正和	全学組織 (専攻科)	専攻科長	重田 和弘
高松キャンパス	副校長	小島 隆史	詫間キャンパス	教務主事 (校長補佐)	一色 弘三	(専攻科)	創造工学専攻長	重田 和弘
	教務主事 (校長補佐)	吉永 慎一		学生主事 (校長補佐)	川染 勇人	(教育研究施設)	電子情報通信工学専攻長	小野安季良
	学生主事 (校長補佐)	多川 正		寮務主事 (校長補佐)	森 和憲		情報基盤センター長	白石 啓一
	寮務主事 (校長補佐)	與田 純		一般教育科長	有馬 弘智	(地域連携推進施設)	AI社会実装教育研究本部部長	村上 幸一
	一般教育科長	中瀬巳紀生		通信ネットワーク工学科長	真鍋 克也		社会基盤メンテナンス教育センター長	林 和彦
	機械工学科長	上代 良文		電子システム工学科長	月本 功		地域人材開発本部部長 (校長補佐)	向谷 光彦
	電気情報工学科長	漆原 史朗		情報工学科長	近藤 祐史	(広域活動等推進施設)	みらい技術共同教育センター長	三崎 幸典
	機械電子工学科長	正箱信一郎	(教育研究施設)	図書館長	内田由理子		地域イノベーションセンター長	嶋崎 真一
	建設環境工学科長	荒牧 憲隆		AI社会実装教育研究センター長	三崎 幸典		総務・広報室長 (校長補佐)	金澤 啓三
(教育研究施設)	図書館長	田口 淳	(学生相談等施設)	学生相談室長	河田 純		国際交流室長 (校長補佐)	太良尾浩生
(学生相談等施設)	AI社会実装教育研究センター長	村上 幸一					ダイバーシティ推進室長	高橋 洋一
	学生相談室長	野口 尚志					教学IR室長	前田 祐作
							技術教育支援センター長	小島 隆史
						(教育研究支援施設)	キャリアサポートセンター長	辻 正敏
						(学生相談等施設)	事務部長	鶴飼 高志
						事 務 部	総務課長	近藤 秀樹
							管理課長	西原 宏晃
							学務課長	財津 電信
							学生課長	海老野 薫



◆現員

教員数

区分	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
現員	1	40	34	18	9	0	102

令和7年5月1日現在

職員数

区分	事務系	技術系	合計
現員	56	24	80

令和7年5月1日現在